



### ● 母体保護法

- 人工妊娠中絶は、妊娠22週未満で母体保護法第14条に該当する場合に施行します。
  - 妊娠の継続または分娩が身体的または経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのあるもの（※本人および配偶者（未婚者はパートナー）の同意が必要です）
  - 暴行もしくは脅迫によって抵抗もしくは拒絶できない間に姦淫されて妊娠したものの

### ● 手術の時期と方法

- **妊娠11週までは日帰り入院で手術**を行います。朝に吸水性の拡張剤を子宮頸管に入れ、1～2時間かけて子宮口を広げます。手術はお昼頃に静脈麻酔下に吸引法で行います。10分程度で終わります。麻酔から覚めて問題なければ帰宅できます。
- **妊娠9週0日までは薬物による人工妊娠中絶**を選択できます。妊娠の維持を阻害する薬を服用し、その2日後に日帰り入院して子宮収縮薬を服用する方法です。不成功だった場合（10%）は手術が必要です。麻酔や手術のリスクが高い方には良い方法です。
- **妊娠12週以降**に相当する胎児がいる場合は、2～3日間かけて子宮頸管を十分に開いてから子宮収縮薬を使用します。**4～5日間の入院**が必要です。

### ● 起こりうる合併症とその対策

- **子宮穿孔**：妊娠子宮は柔らかいため、頸管拡張や手術の際に子宮に穴があくことが稀にあります。穿孔の程度により開腹または腹腔鏡下手術で修復します。
- **静脈麻酔の合併症**：呼吸抑制、低血圧、ショック、誤嚥などがあります。
- **出血**：子宮収縮が不良の場合は子宮収縮薬を投与します。輸血することもあります。
- **感染症**：術後に子宮内に感染を起こす可能性があります。抗生物質を投与します。
- **絨毛遺残**：妊娠組織が残ることがあります（1～2%）。出血が続く場合や、妊娠性のホルモンが低下しない場合は、残った組織を再手術で除去します。

### ● 処置後の留意事項

- 術後の生活に制限はありませんが、あまり無理せず過ごしてください。シャワー浴は当日から可能です。出血が少なくなったら入浴もできます。
- 強い下腹痛、発熱、多量の出血などがあれば、外来を受診してください。
- 異常がなくても約10日後に診察し、術後経過と組織検査の結果を確認します。今後、避妊を希望する場合は手術時、または術後診察の際に開始できます。
- 次回の月経は1～2ヶ月後に始まります。流産が原因で不妊になることはありません。
- 極めてまれですが、子宮内外同時妊娠の場合は術後に追加治療が必要となります。

手術の実施日：            月            日            :            に来院ください

- 朝8時以降は食事をとらないでください。少量の水分は摂取してもかまいません。
- 化粧、マニキュア、ペディキュアなどはせずに来院してください。
- 準備するもの：生理用ショーツ、夜用ナプキン2～3個
- 麻酔薬を使いますので、術後は安全に車を運転できない可能性があります。必ず誰かに送迎してもらうか、公共の交通機関を利用して来院してください。